

乳がん検診をお勧めするべき受診者の選定

～当協会の過去18年の乳がん確定者分析結果より～

公益財団法人宮崎県健康づくり協会

○川崎 美和、坂本 さつき、原田 愛弓、竹下 瑞妃、河野 衣里
浅田 敬子、相馬 宏敏、湯田 敏行

対象者

H17年度～R4年度 総受診者数 104,113件

◎検診方法

マンモのみ

15,111件 (14.5%)

マンモ＋乳エコー(同時併用方式)

89,002件 (85.5%)

◎乳がん (確定診断)

448件 (早期**280件** **62.3%**)

(早期のStage分類 0期：81 I期：199)

検 討 項 目

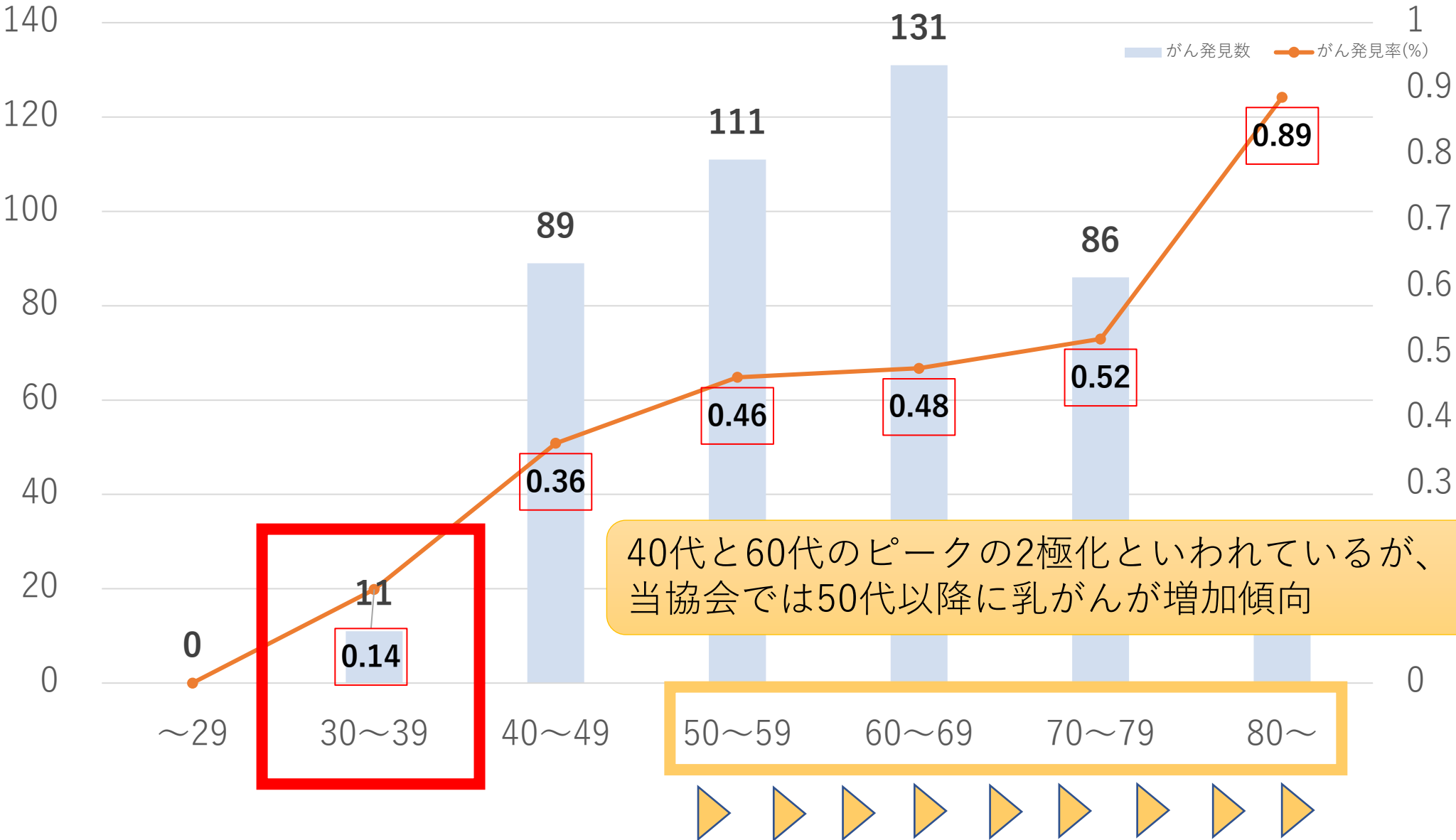
①検診実績より

- ・ 受診年齢
- ・ 検診内容（マンモのみ？ 乳エコーのみ？ 併用？）
- ・ マンモの撮影方向（MLO撮影？ MLO+CC撮影？）

②問診項目より

- ・ 受診歴
- ・ 家族歴
- ・ 既往歴
- ・ 自覚症状

年齢階級別がん発見率



30代の乳がん確定者 11件 (マンモ/乳エコー併用検診受診)

どの検査で所見を指摘??

◇マンモのみ指摘 **5件**(石灰化・構築の乱れ)

◇乳エコーのみで指摘 **4件**(低エコー領域・腫瘤)

◇マンモ/乳エコーともに指摘 **2件**

(MMG：石灰化

乳エコー：低エコー領域・腫瘤)

30代の受診者

高濃度乳房（不均一高濃度+高濃度）の割合が高い

⇒マンモ/乳エコー併用検診を勧める必要性あり

MMG指摘	乳エコー指摘	MMG+乳US指摘
○		
	○	
○		
	○	
○		
	○	
○		
○		
		○
	○	
		○

乳がん確定者の精密検査区分

区 分		検診受診者数	要精検者数	要精検率 %	乳がん					陽性反応適中度
					進行	早期	進行度不明	合計	がん発見率%	
マンモ	マンモのみで指摘	15,111	965	6.39	15	29	0	44	0.29	4.56
マンモ / 乳エ	マンモのみで指摘	89,002	2,028	2.28	5	52	1	58	0.07	2.86
	乳エコーのみで指摘		2,645	2.97	13	75	0	88	0.10	3.33
	マンモ・乳エコー指摘		1,267	1.42	81	169	8	258	0.29	20.36

J-STRATでは乳エコー併用検診での死亡率を低下させるエビデンスはまだ実証されていないが、**乳がん検診の精度を向上させている。**

マンモ撮影方向別での所見指摘の差の比較

◎マンモ/乳エコー併用検診で発見された乳がん **404件**

マンモ2方向撮影(74,560件：83.8%)で発見された乳がん **256件**

※2方向撮影：MLO（内外斜位方向）/ CC（頭尾方向）

◇MLO・CCともに指摘 **206件 (80.5%)**

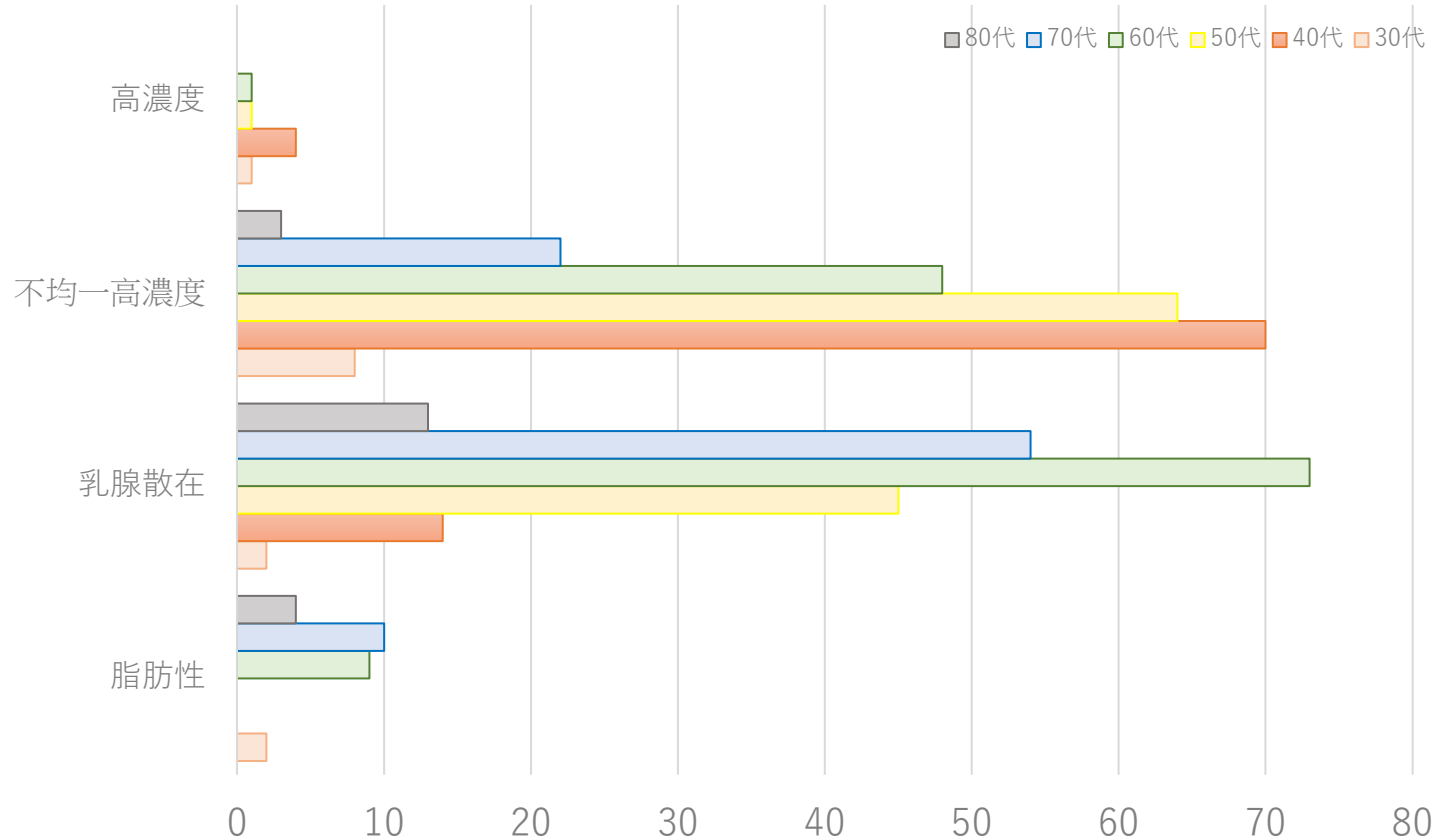
◇MLOのみ指摘 **31件 (12.1%)**

◇**CCのみ指摘 18件 (7.03%)**

国の指針では40代は2方向（MLO/CC）撮影、50代以上は1方向（MLO）撮影と定められているが、CC撮影のみ、しかもマンモでしか指摘できない所見もある ⇒ **全員2方向撮影が望ましい。**

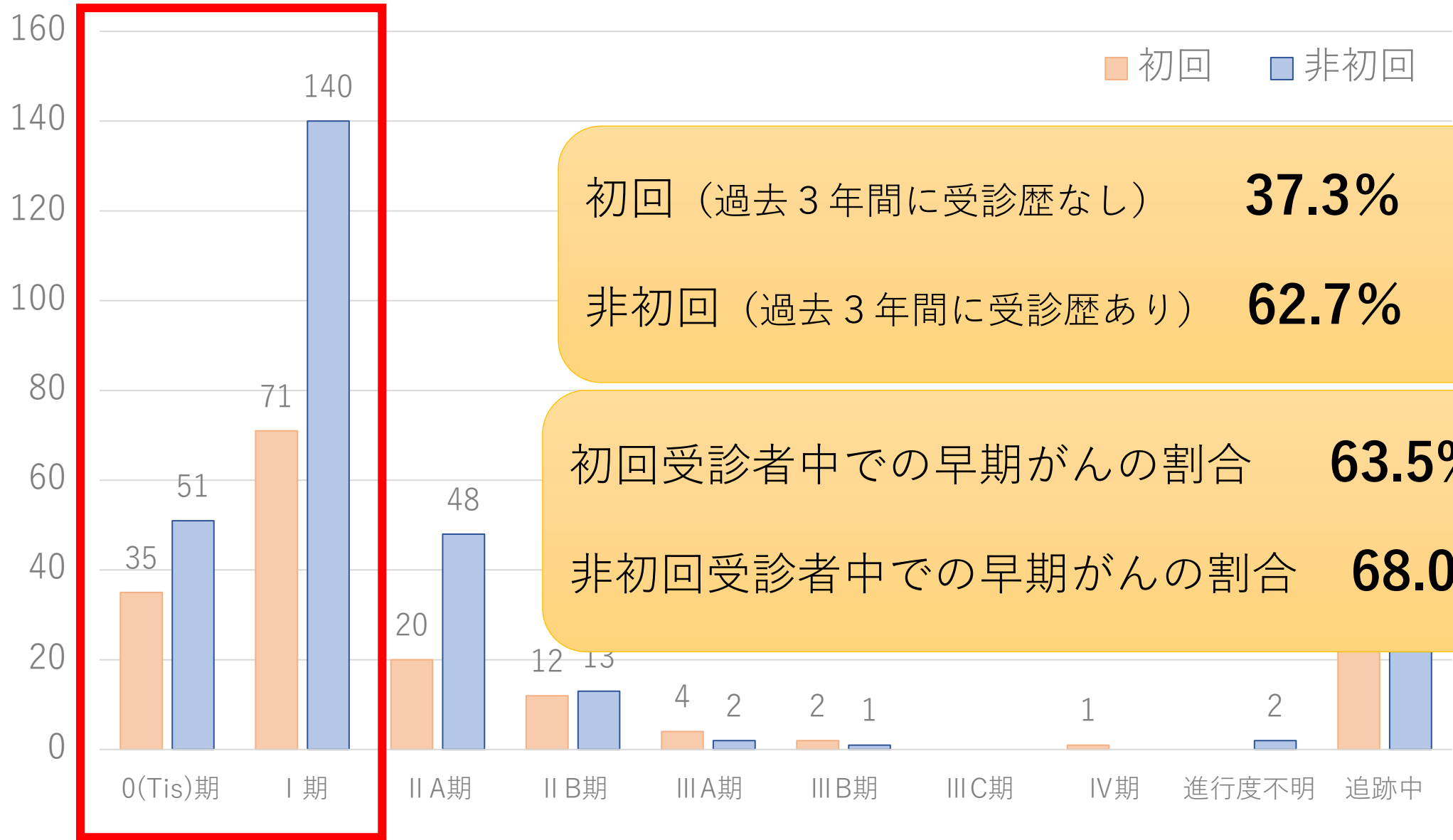
年齢階級別乳房構成

	高濃度乳房の割合 (不均一+高濃度)
30代	69.23
40代	84.09
50代	59.09
60代	37.40
70代	25.58
80代	15.00
計	49.6



30代から50代まで高濃度乳房（不均一高濃度+高濃度）の割合が半数を占めている
 ⇒マンモだけでは所見を見落とす可能性が高くなる ⇒乳エコー併用検診を勧める

受診歴



初回（過去3年間に受診歴なし） **37.3%**

非初回（過去3年間に受診歴あり） **62.7%**

初回受診者中での早期がんの割合 **63.5%**

非初回受診者中での早期がんの割合 **68.0%**

早期がん

受診歴

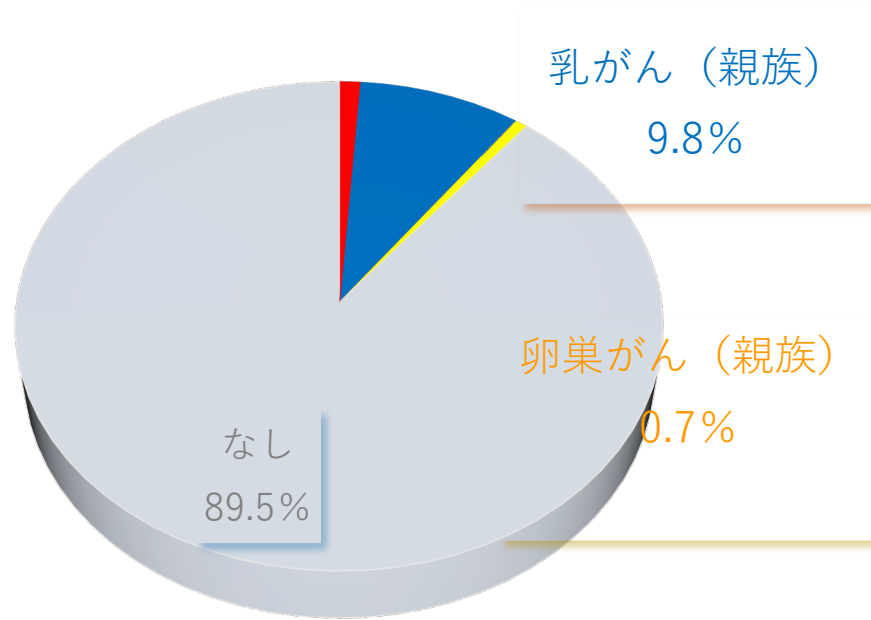
	件数	受診歴					
		初回	1年前	2年前	3年前	4年以上前	不明
0(Tis)期	86	21	15	12			
I 期	211	34	41	36			
II A期	68	12	10	17			
II B期	25	9	3	4			
III A期	6	3	1	1		1	
III B期	3	2			1		
III C期							
IV期	1						1
進行度不明	2			1	1		

受診歴1年前の早期がんの割合
72.7%

受診歴2年前の早期がんの割合
55.1%

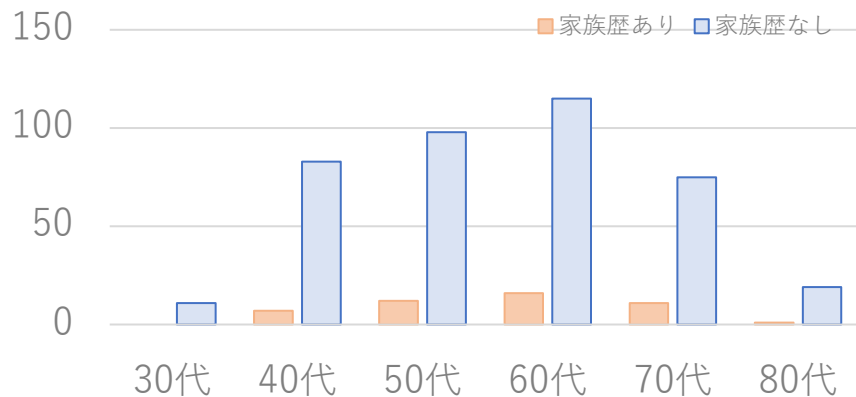
早期発見のためには少なくとも**2年に1回は検診を受診すべき!**

家族歴



乳 (姉/妹)	17
乳 (母)	13
乳 (祖母)	3
乳 (娘)	1
乳 (姉妹) 2人	2
乳 (母・姉/妹) 2人	2
乳 (祖母・母) 2人	1

確定者の10.5%に家族歴あり



本人の2親等以内に乳がんの方がいる場合、遺伝的影響を否定できない⇒**定期的な検診を勧める必要性あり**

既往歴

乳（本人・母）2人	1
乳（本人）	4

平均：16.8年

1回目	2回目		1回目からの乳がん間隔	
右（全切除）	左（全切除）	対側	12年	49歳時
左（ 部分切除 ）	左右（全切除）	同側 ・対側	13年	60歳時
右（全切除）	左（部分切除）	対側	15年	45歳時
左（ 部分切除 ）	左（全切除）	同側	19年	45歳時
左（全切除）	右（全切除）	対側	25年	47歳時

乳がんの経過観察⇒10年間

乳がんにかかるリスクは高い可能性がある

⇒経過観察が終了しても定期的な検診の必要性がある

既往歴

甲状腺疾患	15
乳腺炎	19
乳腺症	7
良性疾患（のう胞・脂肪腫）	3
線維腺腫（OPE済）	4

2か月以内の検診でマンモ/乳エコーともに悪性を示すカテゴリー5

自覚症状がある場合は必ず**乳腺外科等の専門医療機関を勧めることが重要**

自覚症状あり➡かかりつけ医受診:乳エコーのみ➡異常なし

2

乳がん確定者の自覚症状 (平成17年度～令和)

自覚症状がある
13.3%

	乳がん件数	初回受診	自覚症状		
			しこり	分泌物	乳頭の変化
30歳代	11	1 (9.09%)	2 (18.1%)	-	-
40歳代	90	23 (25.56%)	16 (17.8%)	4 (4.44%)	-
50歳代	110	23 (21.1%)	10 (9.17%)	-	-
60歳代	131	16 (12.2%)	13 (9.92%)	1 (0.76%)	-
70歳代	86	14 (16.3%)	5 (5.81%)	2 (2.33%)	1 (1.16%)
80歳代	20	11 (55.0%)	6 (30.0%)	-	-

80代の乳がんのうち6件の方がしこり自覚している
高齢になってからのしこりの自覚は乳がんの可能性が高い

より1名

乳がん検診をお勧めすべき受診者

- 検診項目：**マンモ2方向撮影+乳エコー併用検診**

特に30代から50代は乳US併用検診を勧める必要性あり

- 対象年齢：できれば**30歳以上**

- 受診間隔：**少なくとも2年に1回**

- ◎ 本人の2親等以内に乳がんになった方がいる

- ◎ 乳がんまたは乳腺・甲状腺疾患の既往がある

- ◎ 良性腫瘍等の摘出・針生検をおこなったことがある

- ◎ 以前精密検査を受けたことがある

※自覚症状（しこり・分泌物・乳頭の変化）がある場合は必ず**乳腺外科等の専門の医療機関**を勧めて下さい

乳がん検診の今後の課題

●協会の精検受診率の平均：**91.8%** 未受診者：**564件** (0.5%)

未受診者の中でも**がんを強く疑う（カテゴリー4または5） 24件**

この判定から発見されるがんは約6割程度であるため、特にこの方々に精密医療機関への受診を強く勧めていただきたい。

今後早期で乳がんを発見するためには受診率の向上も必要であるが、
まずは**精検受診率100%を目指すことが重要である。**